



1 下水道事業の現状と課題

1 下水道の役割

下水道は快適な都市生活に欠かせない、最も基本的な施設の一つである。浸水被害を防ぎ、トイレの水洗化を簡単にし、汚水を排除して、市民に健康で安全・快適な生活環境をもたらしている。また、生活排水で汚れた公共用水域の水質保全のために必要不可欠であるなど、都市の水循環サイクルの重要な構成要素になっている。今後はその施設の有効利用など、多目的な活用にも期待が高まっている。



1 雨水の排除（浸水の防除）

梅雨や台風の時も、家の浸水や道路の冠水を防ぐ。

2 周辺の環境の改善

汚れた水たまりがなくなることで、悪臭やハエ・蚊の発生を防ぐ。

3 トイレの水洗化

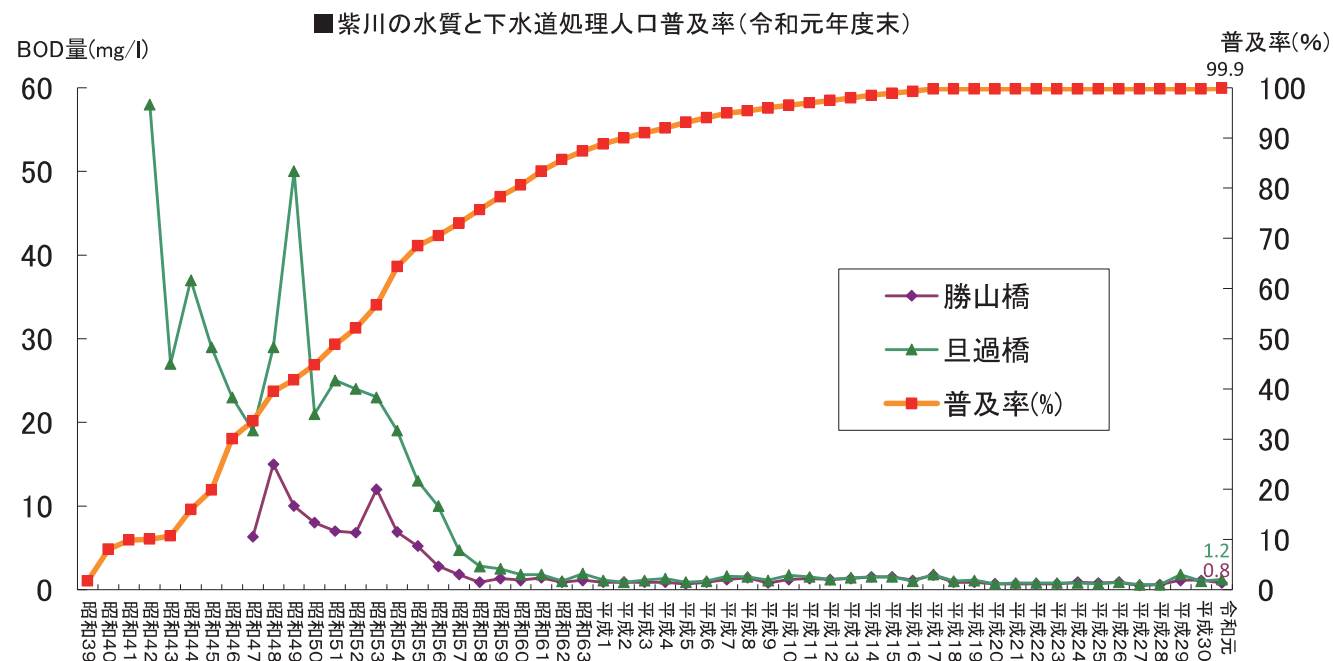
トイレの水洗化が手軽になり、清潔で快適な生活が送れる。

4 水質の保全

汚れた水が流れ込むのを防ぎ、豊かな自然環境を守る。

(1) 美しくなった紫川

北九州市のシンボルとして市民に親しまれている紫川は、かつてはどぶ川のような状態だった。現在はアユやシロウオが遡上し、上流ではホテルが舞うようになった。これは、紫川に流れていた汚水が、下水道の整備によって浄化されたことが大きな理由である。このように下水道は、川や海の水をきれいにし、豊かな自然環境を守るという大きな役割を担っている。



※BOD(生物化学的酸素要求量)は、有機物質の示す指標の一つ。この数値が低いほど、水の中にごみや汚れの有機成分が少ないことを示す。

(2) よみがえった洞海湾

北九州市の下水道整備が本格的にスタートした昭和38年当時の洞海湾は、紫川と同様、ばい煙や汚水による公害で船のスクリーンも溶けてしまうほど汚れ、「死の海」として全国に知られていた。しかし下水道の普及等によって水質が改善され、今では100種類以上の魚介類が棲めるようになった。

当時の洞海湾は、本市の公害問題のすべてが映し出された、悪い意味での北九州市のシンボリック的存在であった。今ではたくさんの生物が棲む海によみがえった。



昭和30年代の洞海湾



現在の洞海湾

2 下水道事業の現況

公共下水道事業は、国の下水道整備緊急措置法に基づく下水道整備五箇年計画により推進されてきた。本市では昭和38年にスタートした第1次五箇年計画(国)と共に本格的に取り組みを開始した。平成17年度末には下水道の人口普及率が99.8%に達した。

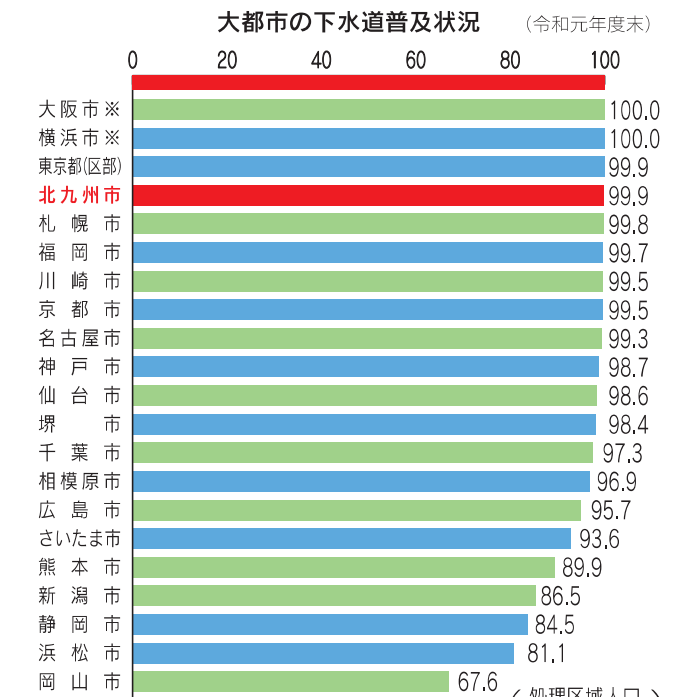
その後、平成22年度から令和2年度の下水道の取組方針となる「北九州市下水道ビジョン」を策定し、近年増加傾向にある豪雨や地震等に備える対策、老朽化が進んだ施設の取替えや処理水質のさらなる向上など、下水道の役割を着実に果たすために必要な施策を計画的に進めてきた。平成28年度には「北九州市上下水道事業中期経営計画」を策定し、基本理念である『水めぐる、住みよいまち、をめざして』に取り組んでいる。

(1) 整備状況

令和元年度末現在下水道が整備された面積は約16,341ha、人口普及率(総人口に対する処理区域内の人口の割合)は99.9%である。

行政区	行政区域内人口	処理区域内人口	普及率
門司区	97,172	96,940	99.8
小倉北区	181,118	180,802	99.8
小倉南区	209,843	209,671	99.9
若松区	82,402	82,084	99.6
八幡東区	65,785	65,733	99.9
八幡西区	252,894	252,641	99.9
戸畑区	57,124	57,124	100
北九州市	946,338	944,995	99.9

※人口は、住民基本台帳人口の数値



注) 「※」が付いているものは、普及率を四捨五入した結果、100.0%となることを示す。

下水道施設は、適切な管理、運営を行うことでその機能が発揮される。機能が十分に活かされないと、浸水や道路陥没、水質汚濁、環境破壊などの原因になるため、定期的な調査やメンテナンスは欠かせない。特に北九州市の下水道事業は昭和38年の五市合併後すぐに本格的に着手され、老朽化が進んでいるものもあり、定期的なメンテナンスが必要とされている。